

平成 30 年度全国なぎなた指導者研修会



中学校武道必修化班の実技研修

平成 30 年度全国なぎなた指導者研修会（主催＝日本武道館・全日本なぎなた連盟、後援＝スポーツ庁）は 11 月 23～25 日の 3 日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで、講師・助講師 11 名、なぎなたを専門としない中学校保健体育科教員を含む 69 名が参加して行われた。

■1 日目(11 月 23 日)

開講式では、中村ゆり子全日本なぎなた連盟常務理事が主催者挨拶に立ち「なぎなた経験のない 20 名近くの学校教員の方々に参加いただきました。なぎなたの魅力を実感できる研修内容となっています。楽しく、一所懸命学んで、何かをつかんで指導現場に戻っていただきたい」と挨拶を述べた。

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が「指導者としての資質向上、現場での指導力発揮を目的とした研修会です。参加者におかれましては、なぎなた連盟を代表する講師の指導により、現在の力量を超えるよう臨んでいただきたい。初心の先生にはなぎなたのダイナミズムを直接、肌で感じていただきたい」と挨拶を述べた後、徳地昌代講師が講師代表挨拶を行った。

はじめに、比嘉悟^{ひが}特別講師による基調講演「人を育て、人をつなぎ、人の絆を深める」が行われた。学生時代はバスケットボールに打ち込み、高校教員を 40 年務め、現在芦屋大学学長を務めている自身の経験に基づいた指導者論を熱く語った。主な内容は以下のとおり。

- ①私の教育目標は、実社会で、社会に貢献できる人間力の基礎を育てること。
- ②教えることは学ぶこと、教えることは希望を語ること。
- ③指導者の役割は、個々の才能に気付かせる、自信を持たせる、スポーツを楽しめる人間関係を育てる、人間形成にある。
- ④教養は、善悪や価値の判断基準になり、人生の岐路に立たされた時や重要な判断を下さなければならない時に必ず必要になる。教養を身につけるには、読書が一番である。
- ⑤自己を高めることを忘れてたら、指導者としての資格はない。
- ⑥常に新しい知見を学ぶ姿勢を忘れない。
- ⑦良い授業、部活動指導を行うには、準備で 80%が決まる。



防具着装的指導

続いて、日本武道協会刊『中学校武道必修化指導書』武道編 DVD を視聴した後、実技研修が行われた。

はじめに、中村講師が礼法、基本、構えについて一斉指導を行い、「礼は相手の目を見て心を伝えることです。相手を尊重する気持ちを忘れないでほしい」と述べた。

実技研修は班別で、A 班は①中学校武道必修化（今浦千信講師・渡邊美穂講師）と②部活動指導（嶋田信子講師）、B 班は授業協力者育成として①学校教員・大学生（紫関譲子講師、松井亮子講師）と②社会体育指導者（徳地講師）に分かれて行われた。

必修化班は日本武道協会作成の指導書に沿って、基本、構え、体さばきを学んだ。今浦講師は「なぎなたは格好良く美しい武道です。身体で感じて、いろいろな意見を聞かせてほしい」と中学校授業で楽しく安全に実践できる指導法を説明した。

夕食後、中学校武道授業実践例報告として、木戸康友石市立鬼怒川中学校教諭と田辺夏奈晃華学園中学校高等学校教諭が発表し、なぎなた授業実施までの経緯、工夫等を資料に基づき報告した。木戸氏は、授業の成果として、以下の3点をあげた。

- ①挨拶や履物を揃えるなど、体育授業ではない場面で変化が見られ、学校生活でも活かしていこうという姿が見られた。
- ②外部指導者がいることで、生徒にきめ細やかな指導が可能になり、生徒に達成感、向上心を持たせることができた。
- ③外部指導者と事前に授業の流れや計画を密に立てることができたため、安全に段階的に授業を進めることができた。

次に、田辺氏は課題として以下の3点をあげた。

- ①ティームティーチング等で、実践を通した研修を



学んだ一対多数の号令を披露

行うことができる環境づくり。

- ②教員養成段階での経験が少ないこと。

- ③生徒に武道を習得する目標を具体的に示すこと。

■2日目(11月24日)

初日に続いて、班別の目的別実技研修が行われた。

必修化班は、礼法、構え、体さばきの復習から始まり、なぎなたの操作、手の内、上下振り、正面打ち、午後は空間での連続打ち、一対多数の号令などを学んだ。続いて一対一のトーナメントによる打ち返し選手権が行われた。参加者が審判を務め、判断基準として、八相の構えができていないか、打つ高さの正確さ、発声、姿勢、技の連続性が示された。

実技研修後、研修室で情報交換会が行われ、中村講師、今浦講師から中学校体育授業実施に向けた連盟の取組として授業協力者人材バンクの活用、課題などが報告された。

■3日目(11月25日)

最終日も引き続き、班別研修が行われた。必修化班では、授業の進め方、授業達成目標について、今浦講師より「実際の授業では、運動が苦手な生徒が多い中でどこまでを教えるか、という問題があります。本時のめあてを対象に応じて、予め示すことが大切であり、生徒が全体像を把握した上で完成型を想像できる「仕掛け」が必要です」となぎなた授業を実施する際のヒントを示した。続いて、演技大会が行われ、6組に分かれリーグ戦で、しかけ応じの1・2本目を披露した。優勝チームには連盟から賞品が贈られ、和やかな雰囲気で行われた。

すべての研修を終了し、全員が大道場に集合して、各班が3日間の成果を披露した。A 班は代表者が「一対多数」の指揮者となり、大きな号令で全体を指揮した。B 班は、3グループがリズムなぎなたを披露し、講師・参加者から大きな拍手が送られた。

閉講式では、今浦講師が講師講評を、中村常務理事が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。